談話の「場」によるコ系・ソ系・ア系の指示詞の使い分け

石黒 圭

1. 研究の目的

1.1 言語使用域による使い分け

日本語の指示詞にはコ系・ソ系・ア系の3種がある。この3種の使い分けを中心に指示詞の理論的な研究は発展し（金水・田窪編（1992））、その使い分けについては、すでにある程度の合意が形成されているように思われる（たとえば田窪・金水（1990）、庵（2007）、堤（2012））。

しかし、理論的な研究は成熟期を迎えている反面、記述的な研究、とりわけコ系・ソ系・ア系の複数が使えるような環境でいずれが選ばれるのかといった、ジャンルごとの傾向を見るような研究は、随筆では興味深い研究が散見されるものの（たとえば小林（2006）、メイナード（2006）、高崎ほか（2007））、それ以外のジャンルではさほど多くはない。

そうしたなかで、本稿の関心は、表現主体が、言語使用域（register）、すなわち周囲の環境によってどのようにコ系・ソ系・ア系の指示詞を使い分けるかにある。とくに、話し言葉と書き言葉といった談話の媒体（mode of discourse）を、シンポジウムのテーマに合わせて談話の「場」と名づけ、「場」によるコ系・ソ系・ア系の指示詞の使い分けに注目したい。

本稿は談話の「場」を三つに分けて考える。すなわち、話し言葉の典型としての対話（dialogue）、話し言葉でありながら書き言葉に近い性格を備えた独話（monologue）、書き言葉の典型としての作文（composition）である。

もちろん、異なる話題では異なる指示詞が使われる可能性がある。そこで、同一の話題を設定して、その使用傾向を見ていくことにする。

1.2 記憶の深浅による使い分け

同一の話題は二つ設定した。一つは、無声短編アニメーション映画（以下「映画」とする）の視聴に基づくストーリーの説明、もう一つは、かつて行った印象的な旅行の思い出（以下「旅行」とする）を語る旅行体験の説明である。

二つの異なる話題を設定したのには理由がある。浅い記憶と深い記憶という記憶の深さの違いが、表現主体の指示詞の使い分けに及ぼす影響を見るためである。「映画」は、見た内容をすぐに再生する浅い記憶に属するのにたいし、「旅行」は、かなり前の体験を再生する深い記憶に属するものと考えられる。

1.3 指示詞の外延性

指示詞は、それ自体に概念的な意味は薄く、周囲の環境にある何かを指すことによって意味を担うものである。すなわち、内包に乏しく、外延によって言葉と

世界を接合する働きが主である。

世界と言った場合、その世界は三つに分かれる。表現主体と理解主体が共有している現場世界、表現主体と理解主体によってすでに表現された文脈世界、表現主体と理解主体それぞれの頭のなかにある記憶世界の三つである。

しかし、今回の話題は、その場にない「映画」と「旅行」なので、現場世界の指示、すなわち現場指示はほとんど出てこない。出てくるのは、文脈世界の指示である文脈指示と、記憶世界の指示である記憶指示である。文脈指示はコ系・ソ系の指示詞によって、記憶指示はア系の指示詞によっておもに担われていると一般に考えられているが、今回のような三つの「場」と二つの話題によって、両者の境界線も含めてその実態がどのようになっているかを仔細に観察したい。

2.調査の方法

「1.研究の目的」で、すでに説明したように、今回の調査は、対話・独話・作文の3種類の表現方法、および、「映画」と「旅行」という二つの方法を含む。

調査対象者は、「映画」が男女各12名、「旅行」が男女各12名の計48名であり、いずれも都内の大学の学部に所属する学部学生である。

「映画」は、イギリスとオランダで製作されたマイケル・デュドク・ドゥ・ヴィット監督による8分の無声短編アニメーション映画『岸辺のふたり』(原題：Father and Daughter) を用いた。2001年米国・英国アカデミー賞短編アニメーション賞を受賞した作品である。1度では、ストーリーの理解が難しいため、調査対象者には2度見せている。

あらすじはつぎのとおりである。

父親と幼い娘が自転車に乗って岸辺にやってきて、楽しそうに岸辺で戯れる。そして、父親が岸辺に泊まっていたボートを漕いで岸を離れ、娘はそれを見送る。

娘は、父親を迎えに毎日のように自転車でその岸辺にやってくる。しかし、父親には会えない。その後、娘は成長するが、成長したあともその岸辺に足を運びつづける。女子学生として友人と、結婚して夫と、母親として子どもたちと。

やがて、年老いた娘は、自転車を押してのろのろと岸辺にやってくる。水はすでに涸れて草原となっており、彼女はそこに分け入っていく。そして、草原のなかに彼女が見つけたのは、父親が乗っていったあのボートであった。彼女はそこに身を横たえて眠りに落ちる。

目を覚ましたとき、彼女は父親と出会う。そして、若いころの姿に戻った娘は父親のもとに駆け寄り、その腕に抱かれるのである。

対話は、同性の友人2名がペアになって行った。独話は、調査対象者と面識のない人物に一方的に説明するという形式を採った。作文は、分量に制限は加えずにパソコンで入力してもらった。調査の順序は、独話→作文→対話である。

対話・独話といった音声データは宇佐美 (2007) に従って文字化し、コ系・ソ系・ア系の指示詞のうち、「これ」「それ」「あれ」「この」「その」「あの」「ここ」「そこ」「あそこ」を抽出した。ただし、「あの」「その」などのうちフィラーと思われるもの、「それで」「それに」などのうち接続詞と思われるものは、数から除いてある。

3. 対話の調査結果

3.1 対話の指示詞の分布の特徴

「2.調査の方法」を踏まえ、調査の結果を、対話・独話・作文の順に説明する。まずは、対話の調査結果から示す。

表のなかのAは「映画」を、Bは「旅行」を、Mは男性を、Fは女性を表す。上段は12名の指示詞の出現数の合計、中段の「%」は指示詞全体にたいするそれぞれの系の割合、下段の「/分」は1分あたりの出現頻度を表している。

表1　対話の指示詞の分布（映画）

	コ系	ソ系	ア系
AM	79	180	330
%	13.40%	30.60%	56.00%
/分	0.64	1.46	2.68
AF	101	193	160
%	22.30%	42.50%	35.20%
/分	0.8	1.53	1.27

表2　対話の指示詞の分布（旅行）

	コ系	ソ系	ア系
BM	62	216	170
%	13.80%	48.20%	38.00%
/分	0.46	1.6	1.26
BF	29	305	111
%	6.50%	68.50%	24.90%
/分	0.2	2.12	0.77

この結果からわかることは、ソ系の指示詞とア系の指示詞が多いことである。とくに、後述する独話・作文の調査結果と比較するとよくわかることだが、ア系の指示詞が多いのが対話の特徴である。また、コ系の指示詞は、「旅行」より「映画」に多いことがその特徴である。

3.2 対話におけるア系の指示詞

対話において、ほかの「場」よりア系の指示詞が多いのは、聞き手が目の前にいて、その聞き手との共通の記憶をア系の指示詞で指すことが多いためである。したがって、同じ映像を見た「映画」でア系の指示詞は頻出する。

旅行でも、対話をした二人が一緒に行った旅行を話題にしたり、たがいが知っている場所や人物に言及する場合、ア系の指示詞が増える傾向が見られる。

以下の［例1］は、「映画」での記憶の共有を強調し、共感を生みだすア系の指示詞の使用である。「映画」での印象的な場面に言及するさいによく見られる。

［例1］「映画」での共通の記憶

AM4　あと、あとね、【あそこ】がさ、半分砂に埋もれてたじゃん、舟が。

AM3　舟が、うん埋もれてた埋もれてた。

AM4　【あれ】も気になってさ。

AM3　【あれ】はなんなんだろうね。

AM4　【あれ】、だって、時間の経過にしては埋もれ方が,,

AM3　甘いね。

AM4　甘い。

また、以下の［例2］は、新宿駅をめぐる会話である。BM5が地方出身者、BM6が首都圏出身者であるが、BM5が旅行で上京したさい、新宿駅を訪れており、両者の共通の経験となっている。

［例2］「旅行」での共通の記憶

BM5　初めて行ったら絶対わかんない場所じゃん。

BM6　うん、【あれ】はだって分かんないよ全然。

BM5　【あれ】さ、なんか駅があって、なんか、上に道路がある（ああ）、部分があるじゃん。

BM6　ああー、なんかもうわけ分かんな

いよね、【あの】辺。

BM5　そこ、どうやって行けば、上にあったんだけど、上行き方分かんないってなってて〈笑い〉。

BM6　なんかね、【あの】辺の大きな駅ってなんかよくわかんないんだよね。

3.3 対話におけるソ系の指示詞

対話においては、ほかの「場」よりソ系の指示詞は少ないものの、全体として見るとけっして少なくない。

対話の場合、話し手が一方的に話しつづけることが少ないため、独話や作文にくらべ、自分の先行発話を指示する文脈指示が少なくなる。一方、聞き手が目の前にいて、聞き手の発話を踏まえて話し手自身の発話を示すことが増えるため、聞き手の先行発話に言及するさいに、ソ系の指示詞を積極的に使うのが対話の特徴であると見ることができる。

以下の［例3］は、聞き手が導入した考え方に同調することを示したソ系の指示詞の例である。

［例3］「映画」で聞き手の話題に言及

AF10　舟こいでてー（うんうん）なんか自殺しちゃって、で娘は父親を忘れられなくて毎日毎日行って/少し間/でも最後に多分この娘も死んで,,

AF9　うんうん、死んだよね。

AF10　で、あの世で会えたみたいな。

AF9　うーん、【それ】は思った、【それ】は思った。

AF10　だよねえ、まあすごい感動した、なんか…。

また、以下の［例4］は、聞き手が示した引用の言葉を話し手が自分の発話に持ちこむソ系の指示詞の例である。

［例4］「旅行」で聞き手の引用に言及

BF4　で、それで、串カツを探してたら（うん）、なんか知らないおじさんが,,

BF3　あー、言ってたよね。

BF4　そうそう〈笑い〉。店の、なんか中から“おいでよ”みたいな、“ここ超おいしいよ”って言うから。

BF3　【それ】ってお店の人が言ってたの?。

BF4　〈お店の人じゃなくて、常連さんが〉{〈}〈笑い〉。

3.4 対話におけるコ系の指示詞

コ系の指示詞は全体としては多いわけではないが、「旅行」にくらべて「映画」のほうで使用が目立つ。

「映画」は、調査の直前に見た映像であるため、まだ記憶が鮮明である。そこで、実際にその映像が現場にあるわけではないのに、あたかも現場にあってそれを指さしているかのような語り方がされている。深い記憶を指す記憶指示の典型がア系の指示詞であるなら、いわば、浅い記憶を指す記憶指示の典型としてコ系の指示詞を見なすことができるだろう。

［例5］浅い記憶指示としてのコ系

AF11　そう、だから【ここ】で、まず【これ】がその出て、順番に出てきた友達といるのとか彼氏といるのとか家族といるのとか【これ】は本当に女の先ほどの女の子だったんだろうかみたいなことについて、こう季節が変化していることとか、また【この】最後におばあさんが父親と再会していることからやっぱり女の子だったんだなってことが〈わかるよねみたいな〉{〈}。

一方、「旅行」で見られるコ系の指示詞

は、視点が旅行している時点に移った現場指示用法のものが中心である。

［例6］現場指示用法としてのコ系

BM12　俺、知らんくて、なんか、先生がなんか、【これ】、めっちゃ、全校てか学年全部の前で【これ】誰のやーみたいな（〈笑い〉）、【この】クレヨンしんちゃんのパンツ誰のやーみたいに言いよって。

BM11　うんうん。

BM12　めっちゃダサいやんみたいに思っとって、誰なんみたいに思っとって、後から調べたら俺一枚パンツ足りんくて、ああーあれ絶対俺のや思って、あとから取り行ってめっちゃ恥ずかしかったなーっていうのをね、書いた。

4.独話の調査結果

4.1　独話の指示詞の分布の特徴

対話に続き、独話の調査結果を示す。

表3　独話の指示詞の分布（映画）

	コ系	ソ系	ア系
AM	23	128	9
%	14.40%	80.00%	5.60%
/分	0.65	3.64	0.26
AF	25	216	3
%	10.30%	88.50%	1.20%
/分	0.5	4.3	0.06

表4　独話の指示詞の分布（旅行）

	コ系	ソ系	ア系
BM	19	180	11
%	9.10%	85.70%	5.20%
/分	0.26	2.45	0.15
BF	14	147	7
%	8.30%	87.50%	4.20%
/分	0.21	2.16	0.1

全体として見た場合の指示詞の使用量は、Aが4～5個／分、Bが2～3個／分で対話とさほど変わらない。

ただし、指示詞の使用が圧倒的にソ系の指示詞に偏っているのがその特徴である。ア系の使用は、書き言葉である作文ほどではないが、その使用は少なく、コ系は三つの「場」のなかでもっとも少なく、とくに「旅行」で少なくなっている。

4.2　独話におけるソ系の指示詞

独話においては全体としてソ系が多く、全体の8割以上を占める。そのほとんどが文脈指示と見なせる用法である。

「映画」では、時間や場所が連続する場合に使われることが多く、それによって出来事の展開が表される。書き言葉では省略されてもおかしくない冗長なものが多く見られる。

独話の場合、紙に書き留めておくわけではないので、次々に移り変わる場面をそれぞれ1枚の絵として鮮明に描こうとするとき、述語のまえに状況に関わる言葉、しかも表現選択の負荷が高い普通名詞ではなく、状況の継続を表すだけで済む指示詞を挟んでおいたほうが記憶への負担が少ない。その結果、ソ系の指示詞が出てきやすくなると考えられる。

［例7］状況の連続を表すソ系の指示詞

AM10　ということで、で、【その】後、最後おばあさんになってきて、で、川はもう干上がって【そこ】に草むらができてて、草原に、【その】中を入っていって、そしたら父親が乗っていた舟、が砂の中に埋まっていて、【そこ】でぱっと、おばあさんは【その】中で寝るんですけど、で、起きてみると、小道が開けていて、【そこ】に、し、いなくなったはずのお父さんがいる。

一方、「旅行」では話題の連続を表す場合に使われることが多く、それによって出来事の展開が表される。書き言葉では省略できそうな冗長なものが多く見られる点でも同様である。

ただし、「旅行」では、地名には固有名詞が使え、「その舟」のような個物指定も少ないため、指示詞の使用頻度は「映画」にくらべて若干低めである。

［例8］話題の連続を表すソ系の指示詞

BF12　ソウルにはない、冷麺みたいのが、ちょっと辛めの冷麺のようなものが釜山にはあって、でー【それ】がとても美味しくて、もう食べたいと思っても日本ではもちろん食べられないし〈笑い〉、ソウルでも食べられないのでー、またもう、釜山は【その】辛い冷麺のおかげで【そこ】に住みたいと思うくらい、結構、そうですね、感動しましたね。その、食べ物が、自分に合うっていうのは、【その】土地に住みたいって思うのとすごい連結するなーっていう風に思いましたね〈笑い〉。

4.3　独話におけるア系の指示詞

ソ系の指示詞にくらべてア系の指示詞は、作文ほどではないが出現頻度は低い。聞き手が親しく、かつインターアクションが多い対話では、ア系の指示詞の使用が、話し手と聞き手の共感作用の生成につながるが、聞き手は眼前にいるものの、初対面で積極的なインターアクションの必要性が薄く、かつ聞き手の知識量が想定できない独話ではア系の指示詞は使いにくかったものと見られる。

しかし、話が興に乗ってきて、記憶のなかにある重要と考えられる情報に言及する場面になると、聞き手の知識の有無にかかわらず、［例9］のようにア系の指示詞が自然に現れることがある。

［例9］ア系による重要情報の表示

AM9　あと途中で、あのー、自転車の車輪、が、あのー、何回も出てきたことを考えると、やっぱりそういう「輪」っていうもので、その輪廻とか、あと、やっぱり、生き死にのつながり、っていうものを感じさせる、やっぱ【あれ】はモチーフになってたと思います。で、最後に出てきた、あのー、「男」なんですけども、まあ、あの、【あれ】は父親、かもしれないし、もしかしたら、けっ、途中で最初の女の子が成長したあとに結婚した【あの】旦那さんかもしれないと思いました。

また、対話ほどインターアクションがないとはいえ、眼前に聞き手がいるので、聞き手に知識があることをきちんと確かめ、それを共有化できた段階でア系の指示詞を使う例も見られた。

［例10］ア系による聞き手との情報共有

BF10　あ、あとはー、えっとなんか、崖にー、ロープを張って、手作りの、あの、こう、シューてやるやつあるじゃないですか（あー、はいはいはい）。【あれ】を手作りでやって（うんうん）、すごい、離れたとこからほんとに、シューていうのをやったんですね（うん）。

4.4　独話におけるコ系の指示詞

独話の場合、コ系の指示詞の使用は三つの「場」のなかでもっとも少なく、使わずに済ます人が多い。しかし、一部によく使う人もいる。

コ系の指示詞を使った場合、話し手と

聞き手がその場にいるような臨場感効果が得られる。具体的には、「映画」の場合、話し手と聞き手がその場で一緒に映画を見ていて、映像を見ながら説明しているかのような効果が感じられる。

［例11］「映画」でのコ系の臨場感効果

AM3　雨の日の描写のときに、木の下に自転車がなくて、しかも行く途中に、本当に真っ黒な服を着た、喪服を着たような割と若い女性とすれ違ったんですが、その、すれ違って、自転車がないっていうことで、おそらくもう【この】時に、【この】少女、少女っていうか、娘さんが、父親の死というのを大体自覚したのではなかろうかというという、えーことが、思われたんです。

一方、「旅行」の場合、数こそ多くないが、視点を現場に移して、旅行に行っているときの気持ちをコ系の指示詞に託す用法が見られる。こうしたコ系の指示詞は、引用のなかでしばしば見られる。

［例12］「旅行」でのコ系の臨場感効果

BF12　今回の、あの、短期留学ということで2週間学生として滞在してたんですけど、あの、釜山は旅行っていう感覚で行ったんですけど、こういつもい、いつも感じてるあー【これ】旅行だなっていう雰囲気よりは、ちゃんとあ、【この】土地に根付いてちょっと生活ができてるなっていう感覚を、こう体験できたので、なんかいつもの旅行とはちょっと違う韓国が見れた気がして、それはすごく新鮮でしたね。

5. 作文の調査結果

5.1 作文の指示詞の分布の特徴

ここでは、対話・独話といった話し言葉に続き、書き言葉である作文の調査結果について示す。

表5　作文の指示詞の分布（映画）

	コ系	ソ系	ア系
AM	21	59	6
%	25.60%	72.00%	7.30%
BM	24	90	0
%	21.00%	79.00%	0.00%

表6　作文の指示詞の分布（映画）

	コ系	ソ系	ア系
AF	21	70	2
%	22.60%	75.30%	2.20%
BF	18	61	2
%	22.20%	75.30%	2.50%

作文の場合、1分あたりの使用頻度を示すことができないが、絶対数から考えて指示詞の使用頻度は低い。

また、コ系・ソ系・ア系の指示詞の使用比率はおおむね独話と近似する。ただし、コ系の頻度がやや増加する一方、ア系の指示詞の頻度がさらに減少する。

5.2 作文におけるソ系の指示詞

作文のソ系の指示詞は、全体の7割以上を占め、相対的な頻度は高い。ただ、独話にくらべて省略されやすく、一人当たりでは独話の半分以下となっている。たとえば、以下の［例13］は［例7］と同じ表現主体による例であるが、［例7］で6箇所に見られた指示詞が、［例13］では1箇所になっている。残りの5箇所は、「草原」「舟」という普通名詞による表現に置き換わったり、最後の文「いなくなったはずの父親が現れます。」の「そこに」のように省略されていたりする。

［例13］置き換わるソ系の指示詞

AM10　最後，娘はおばあさんになり川に行きますが，川は干上がり【そこ】は

草原になっていました。草原を進んでいくと，昔父親が乗っていた舟が砂の中に埋まっているのを見つけ，舟の中で眠ります。おばあさんが目覚めると草原が開け，【φ】いなくなったはずの父親が現れます。

この［例13］のように、読み手が眼前にいない作文では、指示詞のような外延表示よりも、表現としての自立性が高い普通名詞のような内包表示が好まれる一方、なくてもわかるものは積極的に省略される傾向が強い。

また、作文の指示詞の場合、「その＋普通名詞」のように「外延表示＋内包表示」が好んで用いられる。これもまた、表現の自立性の高い作文の特徴である。

［例14］連体修飾の多いソ系の指示詞

BF5　ワシントンでは安く泊まれるユースホステルに滞在しました。【そこ】はひとつの部屋に二段ベッドが置いてあり、6人くらいが泊まれる仕組みになっていました。私たちは【そこ】のユースホステルに2泊する予定でした。朝起きてみると同じ宿泊客の女の子が全身をかきむしりながら泣いていました。どうやら、ベッドバグ（トコジラミ）にさされたようです。【その】子の体にはあちらこちらに虫刺され跡がありました。ユースホステルに数日前から宿泊していたカリフォルニアから来た男性がベッドバグを持ち込んできてしまったようです。彼は夜かゆくて眠れずみんなの共有スペースにあるソファで寝ていたようです。その結果、【その】ソファに座った宿泊客が皆自分の部屋にベッドバグを持ち込んでしまい、繁殖してしまいました。ベッドバグは1日に10匹ほど卵を産み増殖していきます。【その】女の子だけではなく多くの宿泊客が虫に刺され全身をかきむしっていました。

5.3　作文におけるコ系の指示詞

作文の顕著な特徴はコ系の指示詞に見られる。作文は、コ系の指示詞が三つの「場」のなかでもっとも多い。

とくに目立つのが、「この物語」「この旅行」のように自らの話をメタ的に捉えるときに用いる用法である。話題の開始部や終了部に多い。

これは、後方照応にもっぱらコ系の指示詞が用いられたり（建石（2005）など）、話のまとめに「こうして」「このように」を使ったり（俵山（2006）、俵山（2007）など）する現象に関連すると考えられる。

［例15］話の冒頭と結末に見られるコ系

AM10　「父と娘」という題名のアニメーション作品を見ました。【この】物語の主な登場人物は父と娘です。【この】作品中は登場人物は一切しゃべらず，音楽とともに物語がすすみます。

{中略：ソ系の世界}

【これ】で【この】作品は終わりです。最後は娘の死を意味しているのかもしれません。

［例15］に見られるように、「映画」の語りは、冒頭と結末に現れる「この作品」と、その中間に現れる「その世界」によるサンドイッチ構造を成すことがある。

ここに見られるような、話を外側から捉えるコ系の指示詞は、文脈指示と見られるかもしれないが、あたかも眼前に『岸辺のふたり』の映像があり、それを指し示しながら語っているようにも感じられ

る疑似現場指示的な用法である。

冒頭と結末に現れるメタ的なコ系の指示詞と、中間に現れるソ系の指示詞という対立は「旅行」においてもしばしば見られる。「この旅行」と「そこでの経験」という二層構造である。

［例16］は冒頭にコ系の指示詞が現れる例である。

［例16］話の冒頭に見られるコ系

BM3　2日目はUSJに行くと決めていて、【これ】もまた【この】大阪旅行の目玉でもあった。東京ディズニーシーの10周年は東京でも注目を集めているが、USJの10周年はあまり注目を浴びていない。しかしながら今年こそがUSJの10年に1度という貴重な期間であり、【この】機会を見逃すわけには行かないと友達と意気込んでいた。

5.4 作文におけるア系の指示詞

作文におけるア系の指示詞は三つの「場」のなかでもっとも少ない。ア系の指示詞は文脈指示にはならず、もっぱら記憶指示なので、眼前に読み手がいない作文では読み手の記憶を確かめる術がないので、ア系の指示詞は使われにくい。

しかし、ア系の指示詞がまったく使われないわけではない。「映画」では、ア系の指示詞は、父と娘の別れた場面の回顧に集中している。「映画」のなかでおそらく書き手が共通してもっとも印象に残ったと感じた場面である。

［例17］「映画」でのア系による回顧

AM1　ある日、年老いた彼女が川岸へ降りてみると、そこにもう水はなく、草原が一面に広がっていた。彼女は、父親を追うため、草をかきわけながら進んでいく。すると、ぽつんとあいたところに、【あの】日父親が乗って行ってしまった小舟を見つけた。彼女はその中で眠る。

夢の中で、彼女は目を覚ます。周囲にあった丈の高い草は消えていた。彼女が歩き出すと、【あの】日の姿のままの父親が立っている。

一方、「旅行」に見られるア系の指示詞は、読み手もおそらく知っているであろう対象を指すときに用いられる。こちらも過去の記憶の回顧である。

［例18］「旅行」でのア系による回顧

BF1　それにしても、【あの】年は本当に新型インフルエンザに振り回された1年でした。修学旅行だけではありません。たとえば文化祭は、一応は開催されたものの運動系の部活の対外試合は中止になり、体育祭は午後の部のみが行われ、午前の部はカットでした。私たちは高校2年生ということで、すべての行事で中心となる学年だっただけにその無念さは他の学年より大きなものでした。

いずれの例も、過去の記憶が鮮明に思い出させるフラッシュバックのような効果を持っていると感じられる。

6. まとめ

以上の議論を最後にまとめておく。

①対話における指示詞

眼前にいる聞き手とのインターアクションがあるため、聞き手を強く意識した指示詞使用に特徴がある。聞き手との知識の共有を確認し、共感を示すために記憶指示のア系がよく用いられる。また、聞き手の発話を

尊重するために、聞き手の発話を指す文脈指示のソ系がよく用いられる。

②独話における指示詞

一方向的に長く話を続けるため、話の連続を表す指示詞使用に特徴がある。使い分けの分布は作文に近いが、冗長性が高く、文脈指示のソ系で状況や話題の連続を構成する。また、話が興に乗ると、対話の指示詞使用に近づく傾向が見られる。

③作文における指示詞

読み手が眼前にいないため、談話としての自立性が高い指示詞使用に特徴がある。指示詞の使用は独話に近いが、指示詞よりも内包表示あるいは省略を優先する。また、談話構造を強く意識し、話の内部をソ系が、外部をコ系が表示する。

④「映画」「旅行」の指示詞の相違

対話では「映画」のほうがア系の指示詞が多い。これは、話し手と聞き手の共通体験が話題であることが影響している。また、対話・独話といった話し言葉では「映画」のほうがコ系の指示詞が多い。これは、先ほど見たばかりの浅い記憶にある映像が、あたかも眼前にあるかのように語られるのと関連がある。

参考文献

庵功雄（2007）『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版

宇佐美まゆみ（2007）「改訂版：基本的な文字化の原則」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』2003-06年度科学研究費補助金 基盤研究B（2）研究成果報告書

金水敏・田窪行則（1992）『日本語研究資料集　指示詞』ひつじ書房

金水敏・田窪行則（1990）「談話管理理論からみた日本語の指示詞」『認知科学の発展』3、講談社、pp.85-115

小林由紀（2006）「文章中の現場指示的な指示語の用法について：随筆中の『この』を中心に」『早稲田日本語研究』15、pp.1-12

高崎みどり・新屋映子・立川和美（2007）『日本語随筆テクストの諸相』ひつじ書房

建石始（2005）「談話的機能の観点から見た後方照応」『日本語教育』124、pp.33-42

俵山雄司（2006）「『こうして』の意味と用法：談話を終結させる機能に着目して.『日本語教育論集』22、pp.49-57

俵山雄司（2007）「『このように』の意味と用法：談話をまとめる機能に着目して」『日本語文法』7-2、pp.205-221

堤良一（2012）『現代日本語指示詞の総合的研究』ココ出版

メイナード、泉子・K（2006）「指示表現の情意：語り手の視点ストラテジーとして」『日本語科学』19、pp.55-75

付記

本稿の内容は、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）（研究代表者：石黒圭）「日本語母語話者と中国人日本語学習者の作文・独話・対話に見る接続詞使用の対照研究」（2011～2013年度）に基づくものである。

（一橋大学国際教育センター）